

ISO 学生委員会 環境意識継続調査 集計結果

調査期間：2013/4/1～4/7

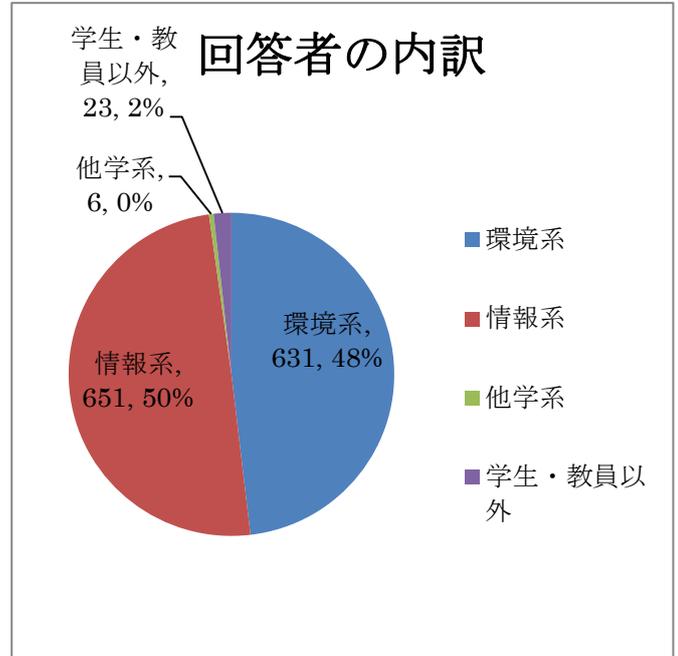
調査対象：東京都市大学 横浜キャンパス全構成員

回答人数：1331人

●回答者の内訳

回答者の性別	人数	割合	回答率	母数
女性	369	27.7%		
男性	956	71.8%		
未記入	6	0.5%		
合計	1331		61.7%	2156

回答者の所属	人数	割合	回答率	母数
環境系	631	47.4%	60.2%	1049
情報系	651	48.9%	63.0%	1033
他学系	6	0.5%		
学生・教員以外	23	1.7%	31.1%	74
未記入	20	1.5%		



環境系回答者の構成

環境系回答者の構成	人数	割合	回答率	母数
環境1年	252	39.9%	96.6%	261
環境2年	127	20.1%	59.4%	214
環境3年	137	21.7%	61.4%	223
環境4年以上	79	12.5%	28.4%	278
院生	13	2.1%		
教員	12	1.9%	54.6%	22
不明	11	1.7%		

情報系回答者の構成

情報系回答者の構成	人数	割合	回答率	母数
情報1年	236	36.3%	94.4%	250
情報2年	135	20.7%	61.1%	221
情報3年	153	23.5%	63.8%	240
情報4年以上	103	15.8%	34.2%	301
院生	11	1.7%		
教員	11	1.7%	52.4%	21
不明	2	0.3%		

ISO学生委員会 環境意識継続調査

●最初にあなた自身について質問します。

性別	<input type="radio"/> ① 女性	<input type="radio"/> ② 男性		
所属	<input type="radio"/> ① 環境系	<input type="radio"/> ② 情報系	<input type="radio"/> ③ 他学系	<input type="radio"/> ④ 学生・教員以外
学年等	<input type="radio"/> ① 1年	<input type="radio"/> ② 2年	<input type="radio"/> ③ 3年	<input type="radio"/> ④ 4年以上
	<input type="radio"/> ⑤ 院生	<input type="radio"/> ⑥ 教員	<input type="radio"/> ⑦ 職員	

学籍番号を書いて、番号のマークを塗りつぶして下さい。
7ケタ、ない人は無回答でお願いします。

学籍番号						
①	①	①	①	①	①	①
②	②	②	②	②	②	②
③	③	③	③	③	③	③
④	④	④	④	④	④	④
⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤
⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥
⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦
⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧
⑨	⑨	⑨	⑨	⑨	⑨	⑨
⑩	⑩	⑩	⑩	⑩	⑩	⑩

【注意事項】

- 記入は、必ずHBまたはBの黒鉛筆で、○の中を正確に、ぬりつぶして下さい。
- 訂正は、プラスチック製消しゴムで、きれいに消して下さい。
- 解答用紙を、折り曲げたり、汚さないでください。

【記入例】

良い例
悪い例

●まず環境への意識について質問します。

Q.あなたはISO14001をどの程度知っていますか？

- ① 全く知らない ② 名前だけは知っている ③ 内容を少し知っている ④ 内容をおおよそ知っている
 ⑤ 内容を人に詳しく説明できる程知っている

Q.あなたは次の(1)～(11)に示す横浜キャンパスのエコスポットについてどの程度知っていますか？

(1) 8分別ゴミ箱	<input type="radio"/> ① 全く知らない <input type="radio"/> ② 見たことはあるが何がエコなのかわからない <input type="radio"/> ③ それがエコであることを少しは知っている <input type="radio"/> ④ それがエコであることをおおよそ知っている <input type="radio"/> ⑤ それがエコであることを人に詳しく説明できる程知っている
(2) 外側カーテン	<input type="radio"/> ① 全く知らない <input type="radio"/> ② 見たことはあるが何がエコなのかわからない <input type="radio"/> ③ それがエコであることを少しは知っている <input type="radio"/> ④ それがエコであることをおおよそ知っている <input type="radio"/> ⑤ それがエコであることを人に詳しく説明できる程知っている
(3) インターロッキング(保水性レンガ)	<input type="radio"/> ① 全く知らない <input type="radio"/> ② 見たことはあるが何がエコなのかわからない <input type="radio"/> ③ それがエコであることを少しは知っている <input type="radio"/> ④ それがエコであることをおおよそ知っている <input type="radio"/> ⑤ それがエコであることを人に詳しく説明できる程知っている
(4) ペアガラス&Low-Eガラス	<input type="radio"/> ① 全く知らない <input type="radio"/> ② 見たことはあるが何がエコなのかわからない <input type="radio"/> ③ それがエコであることを少しは知っている <input type="radio"/> ④ それがエコであることをおおよそ知っている <input type="radio"/> ⑤ それがエコであることを人に詳しく説明できる程知っている
(5) 駐車場	<input type="radio"/> ① 全く知らない <input type="radio"/> ② 見たことはあるが何がエコなのかわからない <input type="radio"/> ③ それがエコであることを少しは知っている <input type="radio"/> ④ それがエコであることをおおよそ知っている <input type="radio"/> ⑤ それがエコであることを人に詳しく説明できる程知っている
(6) 保全林(グリーンマトリックス)	<input type="radio"/> ① 全く知らない <input type="radio"/> ② 見たことはあるが何がエコなのかわからない <input type="radio"/> ③ それがエコであることを少しは知っている <input type="radio"/> ④ それがエコであることをおおよそ知っている <input type="radio"/> ⑤ それがエコであることを人に詳しく説明できる程知っている
(7) 庇(ひさし)	<input type="radio"/> ① 全く知らない <input type="radio"/> ② 見たことはあるが何がエコなのかわからない <input type="radio"/> ③ それがエコであることを少しは知っている <input type="radio"/> ④ それがエコであることをおおよそ知っている <input type="radio"/> ⑤ それがエコであることを人に詳しく説明できる程知っている
(8) 透水性アスファルト	<input type="radio"/> ① 全く知らない <input type="radio"/> ② 見たことはあるが何がエコなのかわからない <input type="radio"/> ③ それがエコであることを少しは知っている <input type="radio"/> ④ それがエコであることをおおよそ知っている <input type="radio"/> ⑤ それがエコであることを人に詳しく説明できる程知っている
(9) ソーラーシステム	<input type="radio"/> ① 全く知らない <input type="radio"/> ② 見たことはあるが何がエコなのかわからない <input type="radio"/> ③ それがエコであることを少しは知っている <input type="radio"/> ④ それがエコであることをおおよそ知っている <input type="radio"/> ⑤ それがエコであることを人に詳しく説明できる程知っている
(10) ビオトープ	<input type="radio"/> ① 全く知らない <input type="radio"/> ② 見たことはあるが何がエコなのかわからない <input type="radio"/> ③ それがエコであることを少しは知っている <input type="radio"/> ④ それがエコであることをおおよそ知っている <input type="radio"/> ⑤ それがエコであることを人に詳しく説明できる程知っている
(11) ハイサイドライト	<input type="radio"/> ① 全く知らない <input type="radio"/> ② 見たことはあるが何がエコなのかわからない <input type="radio"/> ③ それがエコであることを少しは知っている <input type="radio"/> ④ それがエコであることをおおよそ知っている <input type="radio"/> ⑤ それがエコであることを人に詳しく説明できる程知っている

Q.あなたは横浜キャンパスのゴミの分別方法を知っていますか？

- ① まったく知らない ② 少しは知っている ③ 8分別の内容を知っている ④ 8分別の捨て方を詳しく知っている

Q.あなたは3Rについて知っていますか？

- ① 知らない ② 3Rのうち一つないし二つを知っている ③ 3Rの内容を三つとも知っている ④ 3Rの優先順位を知っている

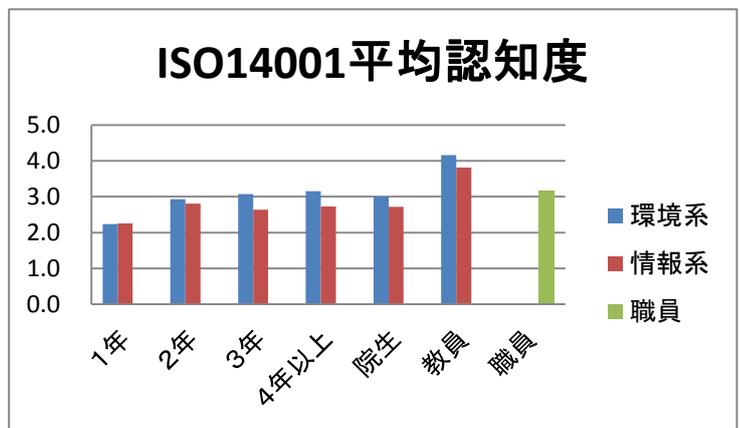
裏面につづく

●ISO14001 認知度

右表および下のグラフは、左表の5段階尺度を等間隔とみなして数値化し、平均をとったものである。

	回答人数	割合
1、全く知らない	184	14.0%
2、名前だけは知っている	348	26.5%
3、内容を少し知っている	545	41.5%
4、内容をおおよそ知っている	206	15.7%
5、内容を人に詳しく説明できるほど知っている	30	2.3%

平均	環境系	情報系	職員
1年	2.2	2.3	
2年	2.9	2.8	
3年	3.1	2.6	
4年以上	3.2	2.7	
院生	3.0	2.7	
教員	4.2	3.8	
職員			3.2
学生平均	2.9	2.6	
全平均	3.1	2.8	



職員と学生に比べ、教員の数値が高い傾向がある。また、情報系に比べ、環境系の回答者の数値が若干高い傾向がある。これは、専攻科目である環境系の構成員のほうがより環境に関心があるためだと思われる。

生徒については、学年が上がるごとに若干上昇する傾向がある。特に1年から2年にかけては名前だけ知っていた人が1年生の間に ISO14001 についての内容を授業などを通して少し知るようである。しかし、それ以降はほぼ横ばいである。

名前だけ、概要を知っているという学生が多いことから、多くの構成員は ISO14001 についての一定の知識は持っていると考えられる。また、内容について深く知っている学生は少なく、今後 ISO 学生委員会・大学では概要だけでなく、立ち入った内容まで説明することが求められる。

○ISO 認知度と他の数値との相関

ISO 認知度との相関係数	
エコスポット平均認知度	0.55
ごみの分別方法認知度	0.45
3R 認知度	0.31
分別実現度	0.34
環境配慮行動平均実現度	0.18

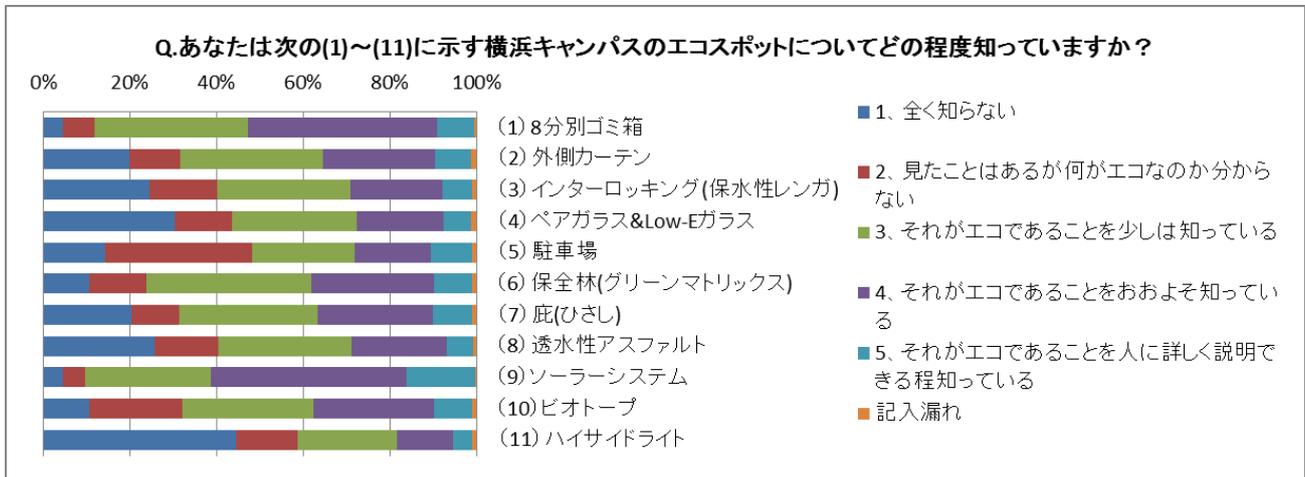
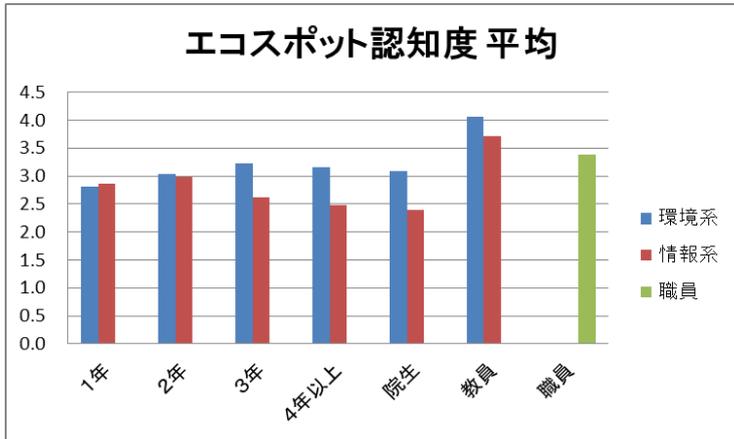
エコスポットの認知度との相関係数は **0.55** であり、ゴミの分別方法に対する認知度もそれに次いでかなり高い相関を示した。一方で環境配慮行動実現度の平均とは **0.18** で殆ど相関がないことを示した。これは、ISO14001 の認知は環境に関する認知に効果を挙げている一方で、環境配慮行動にはあまり影響を与えていないことを示していると考えられる。今後は、大学の ISO14001 の認知度と環境に対する配慮行動の両方をより高める必要がある。

●エコスポットの認知度

Q.あなたは次の(1)～(11)に示す横浜キャンパスのエコスポットについてどの程度知っていますか？

- 1、全く知らない
- 2、見たことはあるが何がエコなのか分からない
- 3、それがエコであることを少しは知っている
- 4、それがエコであることをおおよそ知っている
- 5、それがエコであることを人に詳しく説明できる程知っている

エコスポット認知度	平均
(1) 8 分別ごみ箱	3.45
(2) 外側カーテン	2.91
(3) 保水性レンガ	2.70
(4) ペアガラス	2.58
(5) 駐車場	2.74
(6) 保全林	3.12
(7) 庇	2.93
(8) 透水性アスファルト	2.68
(9) ソーラーシステム	3.63
(10) ビオトープ	3.03
(11) ハイサイドライト	2.18



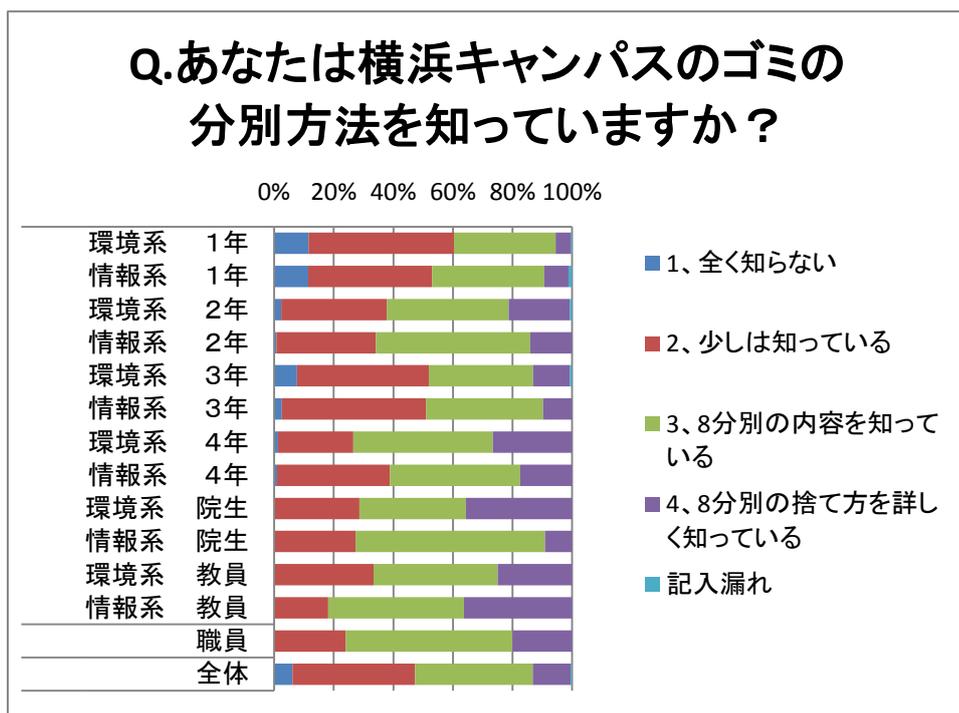
ソーラーシステム、8 分別ごみ箱、保全林、ビオトープの認知度が比較的高かった。これらは普段から学生が利用する身近な施設である、また授業等で接する機会が多いため、このような結果になったと思われる。

ハイサイドライト、ペアガラス、透水性アスファルト、保水性レンガ、駐車場、外側カーテン、庇の7つの認知度が平均 3 に届かなかった。特にハイサイドライトについては、エコキャンパスツアーで取り上げないエコスポットであるため、このような結果になったと思われる。逆にエコキャンパスツアーを行う事に認知度を高める効果があるとの証明ともなっている。

すべてのエコスポットの認知度を平均し、学年学科毎にまとめたところ、環境系の学生はほぼ横ばいだが、情報系の学生は3年生以降に減少する傾向があった。

ゴミの分別、ソーラーシステム、保全林、前向き駐車の内容の理解度が高い。これらは、常に身近にあるものや、普段のニュースで話題になるものであるためと考えられる。逆に、透水性アスファルト、ハイサイドライト、インターロッキング、外側カーテンなど、普段の生活で身近でなく、名前が話題に挙がらないものは認知度が低い。今回の調査で、透水性アスファルト等の認知度、理解度が低いと証明されたから、まず名前から覚えてもらうためにも、紹介パネルを設置するなどし、普段から目につくように改善をする必要がある。

●ごみの分別方法認知度



全体では約半数が8分別の内容を知っていると回答した。

全く知らないと答える人は学年を追うごとに減少する傾向があった。

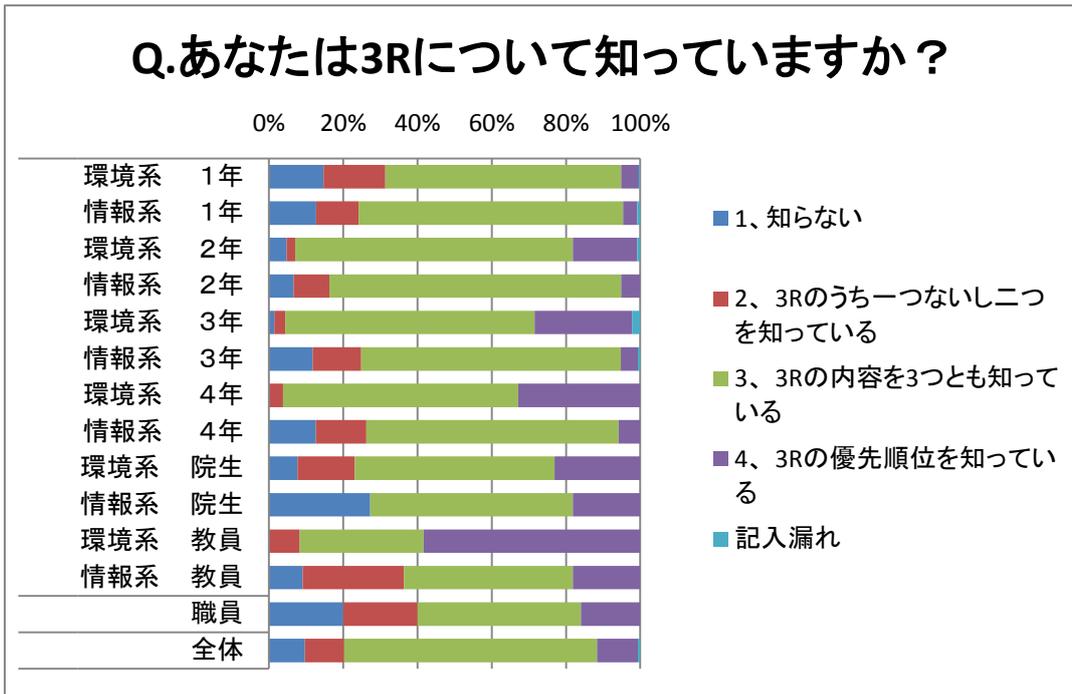
この質問について2や3の回答が多く見られている。2つに固まっていることについて考えられることは横浜キャンパスが8分別という種類が多いため自信を持って分別が出来なくその結果がこの数字に表れているのだと思われる。

なぜ自信を持って分別できないのかという昨年度よりコンビニがカフェにできてゴミを分別する種類が増えたためであるからと思われる。昨年の混在率測定の結果をしてみるとコンビニで売られているカップ麺やリ・リパックの違いがわからないようでリ・リパックの収集場所にカップ麺が混在されることがあったりした。このように間違えやすいようなものも多く、1と2の答えがあったのだと思われる。

改善方法としては、分別の仕方がわかりにくいカップ麺などあるので、ごみの表記の部分にわかりやすい説明や写真などの表記やポスターなどを貼るなどの行動を行えばこの質問での最高の回答である4の8分別の捨て方を詳しく知っているに回答人数が動くと思われる。

ほかに生活ゴミは現在日本では分別をお願いしている市町村が多いため、小さい頃から染みついた習慣であるためと考えられる。8分別は大学に入ってから知ることであるため、どうしても認知度は低い。今後はエコキャンパスツアーなどで8分別を大学生に対し、行い、大学の分別スタイルを理解させることが求められる。

●3R 認知度



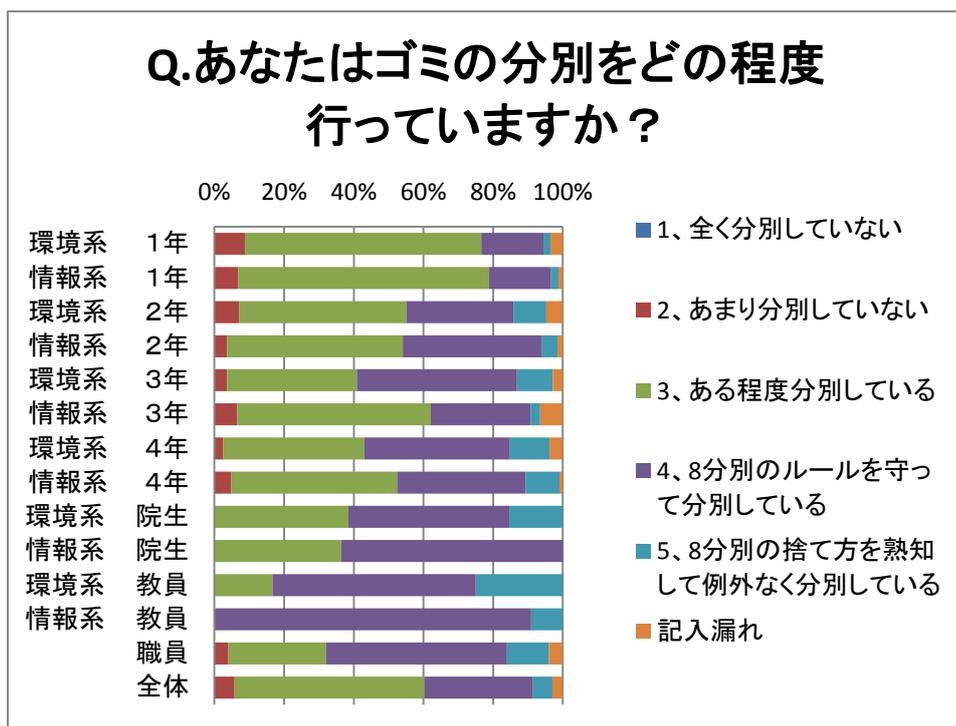
3Rの内容まで知っている人が全体の8割を占めるが、その優先順位まで知っている人は1割程度だった、さらに3Rを知らない、3Rの全てを知らないという人たちも2割程いる。

その理由として横浜市は少し前では“横浜 G30”や今では“ヨコハマ 3R 夢”などゴミの問題や3Rについてとても前向きな活動を行っているために横浜市民の意識はとても高いため3Rについて関心が高い人もいる。しかし、東京都市大学横浜キャンパスの学生は様々な地方から来ている学生も多いので、横浜市で行われている活動も知らないと思われる。そして地方ではこのような活動が行われていない可能性もあるので2割程度3Rの内容について知らないという回答があったのだと思われる。

横浜市の大学に通っているので全員が3Rについて知っている必要があると思われる。

改善方法としては、上にも書いた通り横浜市は3Rの周知について前向きな活動をしているため3Rを推進するような横浜市が作成したポスターがあるので、そのような周知できるようなものを使わせてもらう。この他にも都筑区と連携をとり、イーオをもっと学校に登場させる、Y ショップでポスターを貼るなどして周知する必要がある。(CMを大学で流す等)

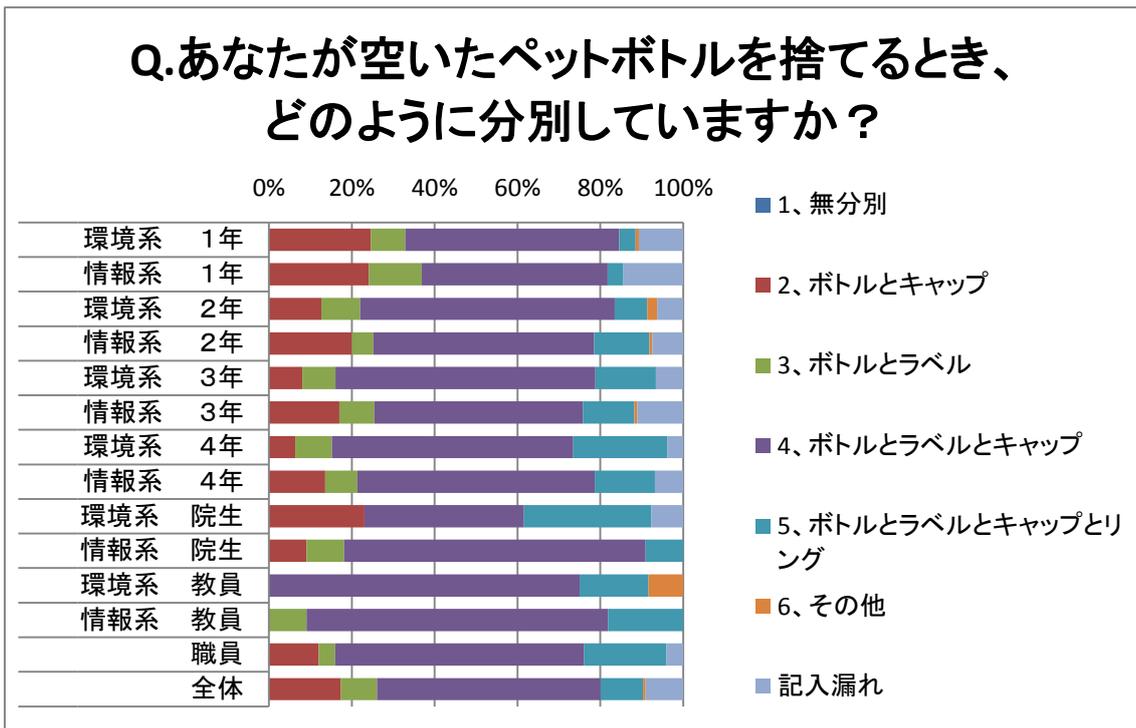
●ごみ分別実施度



全く分別していないという回答に一人も入っていないという事は素晴らしい結果であると思う。3～5の回答についてはゴミを分別するという意識があるとみられる。3の回答については上にも書いてあるが自信を持ってゴミを分別できる人が少ないために半分以上がこの回答になったのだと思われる。なぜ自信を持って分別できないのかと言うと昨年度よりコンビニがカフェにできてゴミを分別する種類が増えたためであるからだと思う。昨年の混在率測定の結果をしてみるとコンビニで売られているカップ麺やリ・リパックの違いがわからないようでリ・リパックの収集場所にカップ麺が混在されているときがあったりした。このように間違えるようなものも多く、1と2の答えがあったのだと思われる。

改善方法としては、横浜キャンパスの分別方法についての考察にまとめた改善方法と同じようにごみの表記の部分にわかりやすい説明や写真の表記やポスターなどを貼るなどの行動を行えばこの質問での最高の回答である5の「8分別の捨て方を熟知して例外なく分別している」に回答人数が動くと思われる。ほかにゴミ分別は行うものだという認知度は高い。生活ゴミは現在日本では分別をお願いしている市町村が多いため、小さい頃から染みついた習慣であるためと考えられる。8分別は大学に入ってから知ることであるため、どうしても認知度は低い。今後はエコキャンパスツアーなどで8分別を大学生に対し、行い、大学の分別スタイルを理解させることが求められる。

●ペットボトルの分別方法

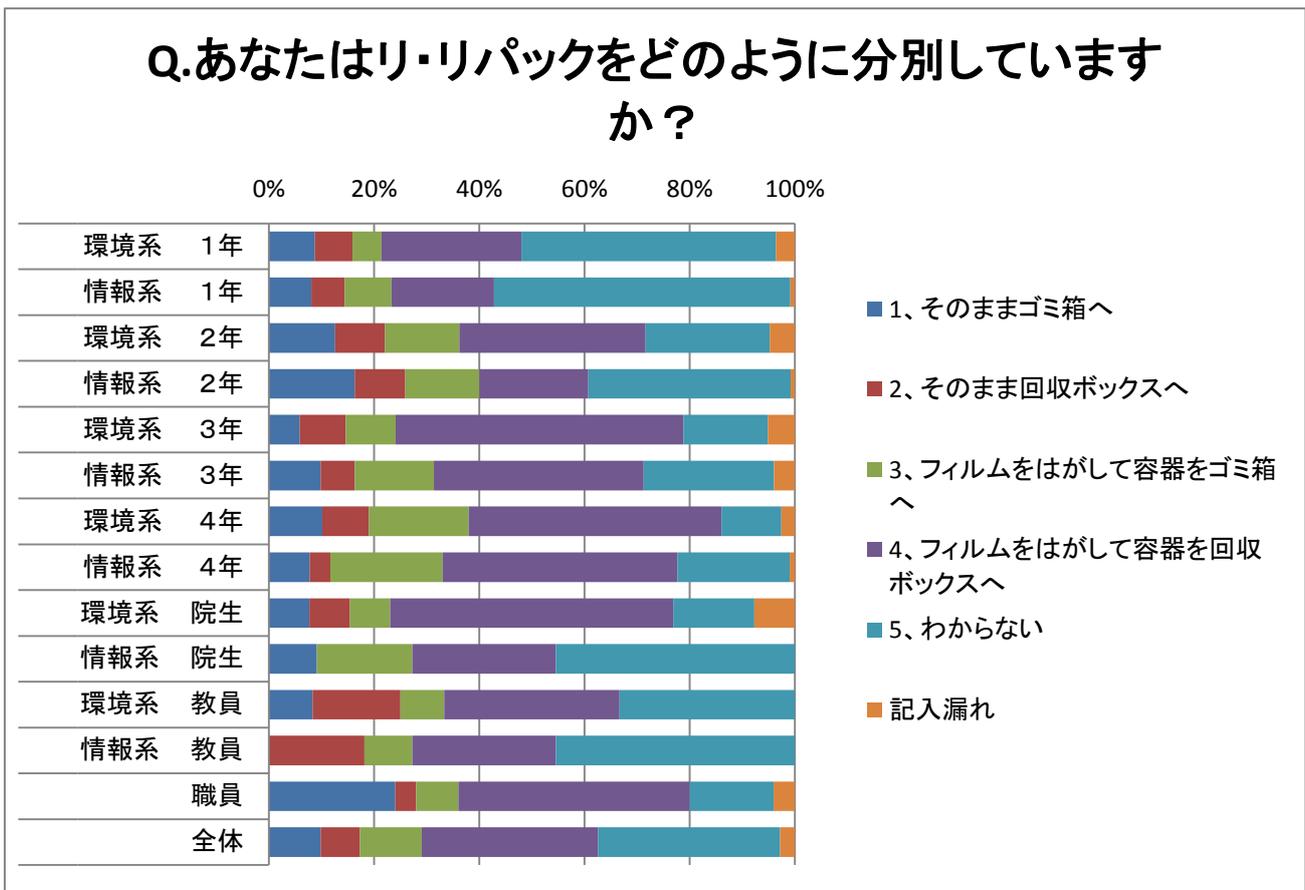


無分別と答えた人は0人だった。ペットボトルを全く分別しない人はおらず、何らかの分別を行っているようである。ボトルとラベルとキャップに分別する人が約半数にのぼった。これはISO学生委員会のキャップを別途回収し、発展途上国へワクチンを送る活動へ協力する人が多いためだと思われる。

学年が上がるごとに分別する項目が増える傾向にあった。普段からペットボトルの分別回収について看板などで呼びかけていた成果だと思われる。

分別していない学生はいないため、ペットボトルは分別するものだという認知度は高い。普段の生活からペットボトルの分別は宣伝され、回収ボックスで示しているためであると考えられる。しかし、普段はリングまでの分別を行うことはないため、大学内でのリング分別意識はひくい。よって、今後はリング分別を周知するポスターの設置、紹介をする必要がある。

●リ・リパックの分別方法



リ・リパックをどのように分別しているかの考察

そのままゴミ箱へ捨てる、フィルムをはがして容器をゴミ箱へ捨てると答えた人は合わせて 21.7%にものぼった。

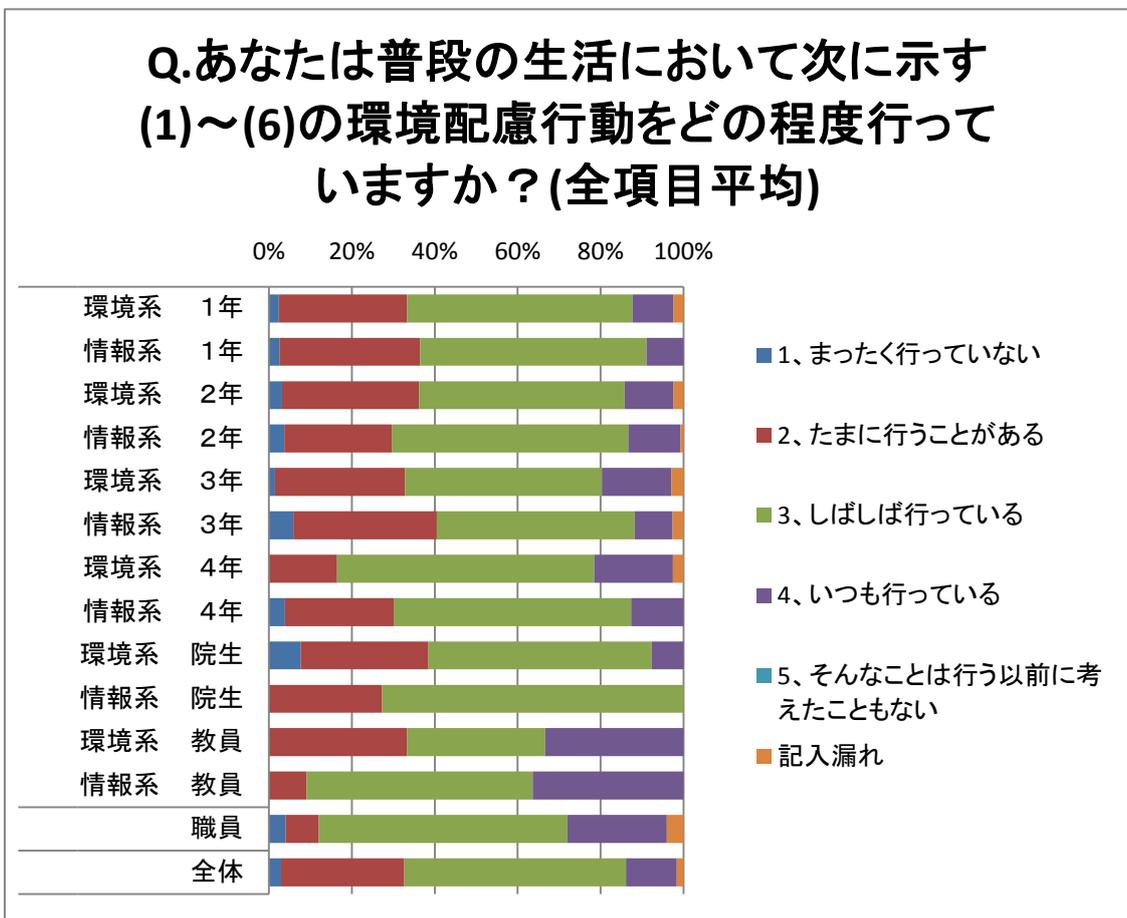
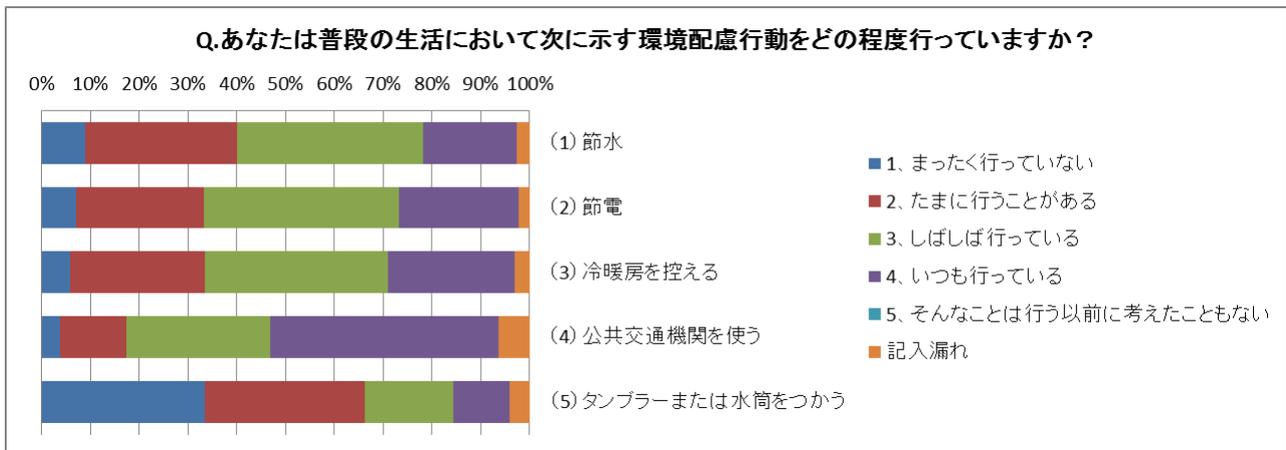
わからないと答えた人が 34.7%にものぼった。リ・リパック自体がまだ認知されていないためだと思われる。

合っている分別の仕方を回答している割合が3分の1と低い理由として昨年度よりリ・リパックの回収方法が変わり、今の2年生に全く回収方法が周知出来ていなかったという事と1年生においてはこのアンケートを取った段階ではリ・リパック自体を知らない状態であるため正しい分別方法の回答が低いのだと思われる。

改善方法として、リ・リパックの回収ボックスを設置したところ、回収率が上がったため1年生だけでなく2～4年生も次のアンケートまでには理解できていると思うのでの結果を期待している。

現在で問題として起きているのは他の容器が混在していることである。まだ理解出来ていない学生がいるので、表記だけでなく回収ボックスの横にポスターを置くなど積極的に周知活動を行いたい。

●環境配慮行動



(1)～(3)を見ると、「いつも行なっている」よりも「たまに行うことがある」の割合と同等もしくは上回っている。これは、家で過ごしているときは、身内が消してくれる・勝手に控えてくれる場合もあり、自分で消す習慣が身についていないのかもしれない。そのために、電気が付いているのが当たり前で、設定温度などは気にしない生活習慣が見についてしまっていると考えられる。東日本大震災により、節水・

節電・冷暖房を控える、以上の3点は前年に比べて控えられてきたが、また使用が増えているのが現状である。この3点を継続するためには、学内においては、ポスター掲示で促してはいるが、習慣を変えるのは簡単ではない。継続的ポスター掲示や促しを行う必要がある。例えば、使用料の可視化やクールビズ・ウォームビズ緑化による日陰場所を作るなどが現時点であげられる。もしくは全自動などの、半強制的に使用料を抑える工夫が必要だろう。

(4)においては、5間の中で一番良い結果を残した。しかし、学生だからこそその結果だとも考えられる。一つは、学内においてだが、本大学は自動車通学禁止である。それにより、公共交通機関の使用が増えるのだろう。二つ目は、免許の取得の有無が関係していると思われる。これらは、公共交通機関を使用すれば事故なども防ぐことができるため、安全面から啓発を行えば、より良い結果につながると考えられる。

(5)は、実際に行なっていることが非常に少なかった。

今は、ペットボトルなどが気軽に買えるため、タンブラーを持っている人を見かけるほうが少ない。ペットボトルのメリットとして、軽量であり、量もある。飲料代を節約するために、タンブラーを使用する人も見かける。しかし、タンブラー使用するメリットが伝わっていないのも事実である。タンブラーの使用を促すためには、タンブラーを使うメリットを伝える。食堂やコンビニでタンブラーを使いやすい環境を整えるタンブラーを使用した際に、サービスをつけるなどの特典をつけることが具体策としてあげられる。

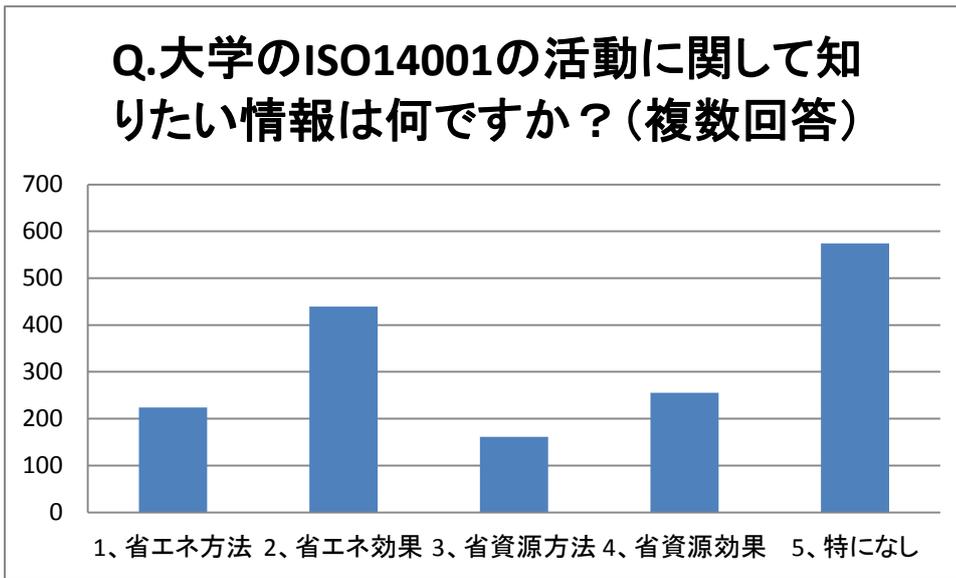
全体的に(5)を除き、学年・学部別から見ても、

約9割が少しでも環境配慮活動を行なっている事がわかる。

しかしながら、やはり環境系学部のほうが意識的に行動する率が高かった。

この結果を維持・改善するためには、結果だけではなく、その対策を実際に行わなければ事態は変わらない。省エネルギー部会では、各項目で上げた案や特に情報系へ向けた意識の改善に力を入れ、部会活動を活発化して行いたい。

●ISO 活動について知りたい情報



省エネルギー関係の情報を知りたい学生が 33%と多い。これは、コンピューター等を使ったり、エアコンを使ったり等、一番身近な環境対策が省エネルギーであるためと考えられる。

省エネ/省資源共に方法よりも効果のほうが高い傾向にある。これは、常に広報されている過程よりもその結果により高い関心があるためであると思われる。

特になしという回答が 43%と多いということは、大学の ISO14001 活動に構成員のほぼ半数の人は関心があまりないことを示していると思われる。今後は ISO14001 活動に構成員が主体的に関わるようにし、関心を高める必要がある。